

## 「長岡京市第4次食育推進計画（案）」に対する意見募集の結果について

### ■意見募集期間

令和7年12月17日（水）から令和8年1月16日（金）

### ■意見提出数

1名（14件）

### ■意見の内容とこれに対する市の考え方

番号	該当ページ	該当箇所	ご意見	市の考え方
1	P.1	第1章 1. 基本理念	子どもたちのキーワードをたけのこの成長に例えた願いに込めるといふ抽象的な表現ではなく、理念においては成人が「おとなの食育」というキーワードがあるように子どもも「子どもの食育」というキーワードで論理的に表現した方が良いと思う。	P.1の8行目に、こどもにとっての食の役割を記載しています。「おとなの食育」と同様に「こどもの食育」という表現がある方がよいというご意見を踏まえ、P.1の8行目の『特にこどもたちにとって「食」は～』を『特に「こどもの食育」は～』に変更いたします。
2	P.6	3. 数値目標別 目標達成状況	食に関するイベントや農業体験などに参加する市民の数にて具体的な評価内容の記載がない。そもそもこのようなイベント広報は聞いたことがない。	P.6の（項目番号6）「食に関するイベントや農業体験などに参加する市民の数」は、現計画（第3次計画）の目標項目であり、具体的には「食育ひろば来場者数」を計上しています。現状に即し、次期第4次計画では、同項目を（項目番号9）「食育ひろばへの参加者数」として計上いたします（P.12・19）。
3	P.7	最下部	ライフコースアプローチとは？注釈説明を追記した方が良い。	ご指摘ありがとうございます。「ライフコースアプローチ」の文言が最初に出てくるのがP.1のため、P.1に注釈を追加いたします。
4	P.8	内容	生産量や流通量の減少を前面に特化しがちだが、そもそも広報全般が弱く、普及推進も停滞しているのではないかと懸念。地元スーパーにも地元産コーナーが設けてあり、ここにも広報の目配りをすべきではないか。	食育ひろばや農業祭、朝市等の各種イベントにおいて、現在も地元農産物の普及啓発に努めているところです。インショップ(スーパーでの地元産コーナー)を含めた直売所情報もホームページで掲載しているほか、乳幼児健診にてチラシを配布しております。

番号	該当ページ	該当箇所	ご意見	市の考え方
5	P.11	4つの柱 (2)(3)(4)	SDGsの指標は何番になるか？図表を掲載した方が良い。	<p>SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。社会、経済、環境の3側面から捉えることのできる17のゴール（目標）があり、世界が直面する課題を網羅的に示しています。</p> <p>SDGsと食育は、17のゴールのうち「（目標2）飢餓」「（目標3）保健」「（目標12）持続可能な消費と生産」など、食料・栄養・環境の側面で関連していると認識しております。</p> <p>本市食育推進計画の4つの柱にSDGsを当てはめると、下記のように考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）食を通じての健康な体づくり：「（目標3）保健」</li> <li>（2）食を通じたコミュニケーションづくりと豊かな人間性の育成：「（目標3）保健」「（目標12）持続可能な消費と生産」</li> <li>（3）地域の食育推進と食文化の伝承：「（目標12）持続可能な消費と生産」</li> <li>（4）食のネットワークづくり：該当項目なし</li> </ul> <p>しかし、食育推進計画は、食育に特化した計画であるため、特段本計画の中でSDGsの一部を触れることはせず、原案通りといたします。</p>
6	P.2	推進体制 イメージ図	有機農業やオーガニック食材の普及イベントも追加してほしい。	
7	P.11	4つの柱 (2)(3)(4)	食育推進の観点では是非オーガニック給食を始めとする有機食材の積極推進を取り入れて欲しい。食のネットワークづくりでは11月開催の農業フェアで農水省がブース出展をされていて担当者と話していたが、みどりの食料システム戦略の推進を取り入れて欲しい。	<p>有機農産物の選択は、グリーンコンシューマー（環境に配慮した商品を選択する消費者）活動の一つとして捉えているため、計画は原案通りといたします。</p> <p>有機農業とは、①化学的に合成された肥料及び農薬を使用しない ②遺伝子組換え技術を利用しない ③農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する この3つの農業生産方法を用いて行われる農業であると「有機農業の推進に関する法律」で定義されています。</p>
8	P.15・16	数値目標	適塩の普及啓発と合わせて無農薬・減農薬・化学肥料抑制の視点も取り入れて欲しい。これらは子どもの発達障害に及ぼす影響が大きい（2024年、立憲民主党の長妻昭衆議院議員が国会厚労委員会で質問）。	<p>一方、農林水産省では、安心・安全な農作物を安定して供給するために、科学的データを基に、ヒトの健康や環境への安全性について問題がないことを確認した上で、使用できる農薬の種類や使用基準・使用方法を定めています。</p> <p>安定した食料供給が必要な保育所・学校給食においては、引き続き、食育推進と地産地消推進の観点から、地元産野菜を積極的に取り入れ、良質で安全な食材を使用した給食提供に努めてまいります。</p>
9	P.21	食のネットワーク づくり	市全体で取り組むこととして、食料品店等における啓発は減塩だけでなく無農薬・減農薬・化学肥料抑制の掲示推進もして欲しい（参考：HELP長岡京店）。様々な食育の連携強化としては「みどりの食料システム戦略」をもとに有機農法・食材の積極推進も検討してほしい。	

番号	該当ページ	該当箇所	ご意見	市の考え方
10	P.12	数値目標一覧	農業体験が除かれているが理由は？有機農業体験という視点も踏まえて目標設定をお願いしたい。	農業体験については、保育所・学校等で実施しています。国の方針としても、農業体験を通じて食への関心を高め、食べ物や生産者への感謝の気持ちを育むことが重要であると位置づけられています。今後も農林振興課と保育所・学校等が連携して農業体験を実施していきます。しかし、農業体験者数を市で把握することが難しいため、目標項目は「食育ひろばの参加数」のみとしています。
11	P.12	数値目標一覧	食育ひろばへの参加はコミュニケーションづくりに該当するのではないか。	食育ひろばでは、様々な取組を行っており、「地域の食育推進と食文化の伝承」に関する取組だけでなく、「食を通じての健康な体づくり」に関する取組や「食を通じたコミュニケーションづくりと豊かな人間性の育成」に関する取組も行います。食育ひろばで得た知識や気づきを地域の食育推進につなげていただきたい思いから、「地域の食育推進と食文化の伝承」の柱に分類しています。
12	P.15・16	数値目標	全体的に健康増進に特化している傾向がある。健康増進にはある意味強制力がはたらき、目標としては伸び悩むのではないか？	食と健康増進は密接に関係しており、食育基本法においても、「食」に関して信頼できる情報に基づく適切な判断を行う能力を身に付けることによって、心身の健康を増進する健全な食生活を実践することが求められています。健康増進のために市民の皆様に正しい食情報を伝えることは大切な食育の取組であるため、今後も推進してまいります。
13	P.12	数値目標一覧	食材や調味料の扱いは強制力が働き人間性の特徴に影響が出やすく、育成には不向きと思われる。	ここに掲げている目標は、何らかの強制力をもって推進しようとする類のものではありません。食材等を使い切り、捨てないようにする心がけは、食べ物に対する感謝の気持ちから生まれるものと考えます。そのような食への感謝の気持ちは、豊かな人間性にも通ずるものです。国においても、生産者と消費者との交流促進等により、食に対する理解を深めることが進められており、また、国の第4次食育推進基本計画においても、食品ロス削減推進法に基づき「食品ロス削減」が推進されています。市としても推進していくべき内容として目標項目に設定しています。
14	P.17・18	数値目標	これも全体的に一時期ブームとなったもったいない精神のイメージが強調され、推進には強制力がはたらき数値目標の妨げになるリスクがあると考えます。	

番号	該当ページ	該当箇所	ご意見	市の考え方
14	P.17・18	数値目標	<p>家族等を持たない単身世帯向けの啓発も必要ではないか。外食機会が増える傾向で添加物を抑制したフード店（参考：バーガーキング長岡京店）等でのコミュニケーション推進が良いと思う。</p>	<p>単身世帯向けの啓発も必要と考えております。特に、高齢単身者における共食はフレイルや認知症予防につながることから、地域の交流の場を活用するなど、孤食のリスクを減らす取り組みを進めていく予定であり、P.18にも記載しております。</p>